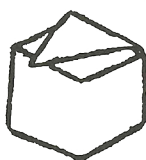


Hiraite
moyou ni
shitemita

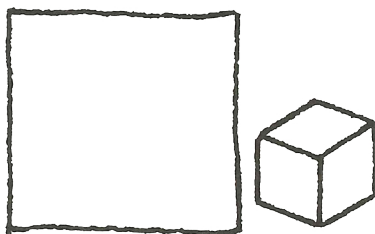


Nawa o
maite
mita



Tsutsunde
mita

Kami to hako ga atta



独立をしたての15年前、京都に住む吉田章男さんに出会い友達になった。彼も会社を辞めたばかりで、大きな借金をしてイラストレーターやアーティストに扇子絵をおこしてもらい、その扇子を自ら担いで上京して、新しい扇子を一生懸命伝えていた。そんな思いに引き寄せられ、毎晩のように電話で語り合っていた。そんな吉田さんが、かわいらしい女の子を連れてきた。当時手ぬぐい屋につとめていたヒロツさん。そしてあとから背広と眼鏡とネクタイばかりの手ぬぐい屋のタカハシさんが現れた。(後にこの二人結婚した!) 二人とも「新しい価値観の手ぬぐいをつくりたい!」と熱い思いを語っていた。この熱い思いが恋につながったのだと、いまでも思っている…。さて、その手ぬぐいのデザインをすることになった。昔は晒の木綿しかなかった時代、拭く、被る、包む、と、万能布の役目をしていたすごい布がこの手ぬぐい。そんな手ぬぐいを、使われている風景を思い浮かべてデザインをしてみた。